

2) 17年度事業報告及び18年度事業計画

17年度事業報告
 習志野台防災訓練 6月12日 参加局11局
 市総合防災訓練 8月28日JR1YUX6局
 JJ1YNA47局
 の参加で無事終了し、午後に反省会を実施した。
 防災フェア 1月21日 大雪のため中止
 18年度事業計画
 習志野台地区防災訓練 6月18日(日)予定

市総合防災訓練 8月27日(日)予定
 防災フェア2007 平成19年1月 予定
 それぞれ昨年度と同様の内容で行われる予定です。
 皆様には奮ってご参加の程、お願いします。

3) JR1YUX役員紹介
 JG1SXV 市原氏、JF1UUG 山田氏
 JR1DIU 伊藤氏、JJ1DPD 湯浅氏

3. JJ1YNAクラブ定期総会

1) 新役員体制について

新会長 JA6AZE 説田氏就任挨拶



この度、30年の歴史を持つ「船橋市アマチュア無線非常通信連絡会」の会長を、お引き受けすることになりました。経歴、技術力など実績をお持ちの皆様の中での会長の就任は大変緊張しています。

歴代会長、船橋市役所の関係者、そして会員の皆様が作ってこられたこの会は、幸いな事に『実際の非常通信』を行う事もなく過ごして参りましたが、地下のエネルギーは十分に蓄積されており、災害がいつ発生してもおかしくないと云われている昨今の状況から、会員の皆様には万が一の場合を想定し、ボランティアとしての諸準備をしていただける事を期待しています。

会長に就任と申しまして、私の出来る事は限られております。会員の皆様に協力があってこそ初めて、この会が非常の場合に活動出来る条件が

整う事になりますので、これからも是非よろしく「ご協力」お願いいたします。

役員及び役割分担表

会長	JA6AZE	オリエーティング	7L3UQW 7K2CWU
副会長	JH1MQC	レピータ	JA1QC
連絡会行事	JH1MQC	クラブ局管理	JK1TUJ
移動運用	JA1VRZ JH1GEN	会計	JH1TVY
ネット構築	JS1IWA JK1PIK	広報	JS1IWA (HP)JAIWOI
技術講習	JK1TUJ JJ1GRK		JL1GYB



2) 17年度事業報告及び18年度事業計画

オンエアミーティングについて

毎回の参加局数は20局前後ですが、どうやらメンバーが固定しているようです。

船橋市アマチュア無線非常通信連絡会と船橋市アマチュア無線クラブ、そして船橋市役所アマチュア無線クラブのメンバー全部合わせると、かなりの数になってひとつの周波数でオンエアすることは不可能だと思ふ反面、チェックのみでも参加して頂きたいものだと思ひながら、3年の任期満了を迎えることとなりました。

今日に至るまでメンバー各位に頂いたご協力を深く感謝申し上げます。どちらかと云うとNC局は毎回参加される局の顔ぶれが耳にインプットされまして、声とコールサインが一致するようになります。すると、ちょっと声を聞いただけで体調の如何を判断出来るようになります。良好なコミュニケーションとはこのようなものかと納得できるのです。運用環境を整備してネットコントロールグループの一員として立候補して下さるメンバーが一人でも多く現れることを希望しまして任を離れるご挨拶とさせていただきます。

有難うございました。ちなみに、この一年間一度もオンエアミーティングに参加されないメンバーは約四割でした。 JH1GEN

移動運用について

17年度移動運用報告

- 10月9日 第1回 市原市高滝湖周辺の丘陵 当日雨天の為、中止
- 2月19日 第2回 柏市箕輪新田手賀沼沼畔 ゲスト含め13局にて実施(芋煮会は都合により中止)
- 3月26日 第3回 長南町笠森山周辺山地 満開の桜の下、ゲスト含め10局にて実施

JA6AZE

18年度移動運用計画

今年度の移動運用は5月と10月の2回計画をしています。主にHFのアンテナは手賀沼の湖畔がアンテナが立てやすいので良いでしょう。VHF, UHFは標高の高い山の上で行いたいと思います。

HFのアンテナはフルサイズ、短縮アンテナ、ロングワイヤーにカップラなどを運用すると良いでしょう。VHF, UHFはやはり八木アンテナとかGPでの運用でどこまで届くか実験してみたいと思います。

アンテナをアナライザーやSWRメータで測定してみて調整するのも良いと思います。自作アンテナの実験も面白いと思います。 JA1VRZ

ネットワーク構築テストについて

年間ベスト10結果表

17年度ネットワーク構築テスト結果

- 第1回 7月03日 参加局14局
- 第2回 9月18日 参加局14局
- 第3回 12月18日 参加局11局

JA1OQX

18年度ネットワーク構築テスト計画

- 第1回 4月23日 済み
- 第2回 7月 9日 予定
- 第3回 12月17日 予定

JK1PIK, JS1IWA

順位	CALL	得点
1	JA1QC	57
2	7L1FYS	50
3	JO1GLR	46
4	JK1PIK	37
5	JA1OQX	32
6	7L1TTH	32
7	JG1EDX	22
8	JA1BWA	20
9	JH1TVY	18
10	7K2CWU	16

技術講習会について

17年度技術講習会報告

7月17日 飯山満公民館にて

単3乾電池1本で点灯するLEDライトの製作

講師 JL1GYB 木村さん

11月20日 飯山満公民館にて

LED点滅イルミネーションの製作

講師 JEIFTN 岡村さん

18年度技術講習会予定

9月 地上デジタル放送の解説

講師 JJ1GRK 高木さん

11月 製作会 (事前予約制)

講師 JJ1GRK 高木さん

開催日については決定しておりません。

決まり次第お知らせ致します。

JK1TUJ

広報活動について

17年度報告

平成17年度については計画通り年4回発行致しました。

トピックスとしましては第32号よりJA1BWA 高橋さんのハム運用講座が始まり現在第4回までが掲載されております。この講座は我々ハムが日常交信するための基本的なルールから、連絡会員として非常通信を取り扱うにあたっての法的解釈や具体的な運用方法などを、氏の豊富な知識から詳細に亘って記載されたものです。ニュースと一括して綴じてありますので、必要に応じ切り離して保管も出来ますので有効に活用してください。

JK1PIK

18年度計画

連絡会ニュースは 継続させることを前提とし、年4回発行(6, 9, 12, 3月)とします。そのため内容は簡潔に、トピックス 行事案内と報告 お知らせの3部構成とします。なお、編集の手間を省くため、行事案内および報告は予め原稿依頼書を送りますので、役員の方は期限内に原稿を作成して広報まで届けて下さい。また、行事の写真提供についてもご協力よろしく申し上げます。ホームページの更新は原則として、ニュースと合せて更新する予定です。

<協力者募集のお願い> 皆様のご要望に答えるためには、協力者なしでは無理ですから、アシスタントを募集します。

JS1IWA

連絡会、クラブ 2006年行事 カレンダー

月 日	行事	場所	担当幹事
4月9日	定期総会	市消防局	役員全員
4月23日	NET構築テスト	市内	JK1PIK JS1IWA
5月21日	移動運用	手賀沼湖畔	JA1VRZ JH1GEN
	ニュース発行、ホームページ更新		JS1IWA JA1WOI
6月18日	習志野台地区防災訓練	習志野台8号公園	JH1MQC JA6AZE
7月9日	NET構築テスト	市内	JK1PIK JS1IWA
8月	市防災訓練説明会	飯山満公民館	JH1MQC JA6AZE
8月27日	市防災訓練	市内	JH1MQC JA6AZE
8月27日	防災訓練反省会	飯山満公民館	JH1MQC JA6AZE
	ニュース発行、ホームページ更新		JS1IWA JA1WOI
9月	地上デジタル放送解説	飯山満公民館	JJ1GRK JK1TUJ JL1GYB
10月	移動運用		JA1VRZ JH1GEN
11月	製作会(事前予約制)	飯山満公民館	JJ1GRK JK1TUJ JL1GYB
	ニュース発行、ホームページ更新		JS1IWA JA1WOI
12月17日	NET構築テスト	市内	JK1PIK JS1IWA
1月	防災フェア		JH1MQC JA6AZE
2月			
3月	役員会	飯山満公民館	役員全員
	ニュース発行、ホームページ更新		JS1IWA JA1WOI

桜満開の笠森移動運用

月日 3月26日 場所 長南町笠森地区

担当 JA6AZE 説田克志

当日は東船橋駅に集合、京葉道路で市原に行き、市原道の駅で食料を調達、一路笠森地区へ。道中でOMF局からコールが有り、笠森観音の駐車場で合流。道案内をしていただき、移動地に到着。数箇所に分かれてHF～V,UHFで運用。船橋をはじめ近県各局からHFではオーバーシーも達成。終盤にはOQX局ご夫妻も到着。その後OMF局の言われる「どろんこランド」を訪問。お茶



をご馳走になり、竹酢液や竹炭をお土産にいただき、閩井戸経由の京葉道路側道で16号まで帰着解散となりました。参加者JA1EDJ,JA10QX,&XYL(gest),JA1VRZ,JA2LGY(gest),JA6AZE,JG1DVY,JO1GLR,JK1TUJ,7M3OMF

事務局からのお知らせ

前号から、局免許の更新情報についてはニュースでお知らせすることになりました。対象とされる局は、次の通りですから忘れないで手続きをお願いします。ここ半年以内に無線局免許の切れる局

7K2CWU,7L1TTH,7L4JUO,7N1TCU,JA1WLO,JA1XQC,JA6AZE
JF1ONQ,JF6FET,JM1MUA,JN1KQM,JN1XAB,JO1CIU,JO1GLR
無線局免許状コピー未送付局 JE1VCP 以上です。 事務局 防災課 金子、工藤

インフォメーション

総会における質疑応答 件数が多いため、紙面構成の都合から別紙にまとめてあります。

ハム運用講座最終回 本号にてJA1BWAさんの「連載ハム運用講座」が今回の第5回をもって終わりました。フォネティクスコードとQ符号、略号の使い方 各バンドの使用区分と国内QSOの方法(電話&電信) オンエアミーティングの方法 非常通信について 国内コンテストの運用方法とHF帯の電波伝播についてと盛りだくさんの内容を分かりやすく解説して頂きましたので、保存資料として活用してください。

ジャンク市の売上金 総会終了後、駐車場にてジャンク市が開かれ売上金の一部¥13,505をクラブ局運営資金としてご寄付頂きました。

編集後記：紙面のイメージを少し変えました。画像表現を多めにして文書は短く！をモットーに編集しました。ファイルが大きくなり事務局にお手間をおかけしますが、ご協力よろしくお願ひします。また、写真提供に7L1TTH島村さんのご協力もありました。おかげで思いどおりの紙面に仕上げる事が出来て感謝しています。



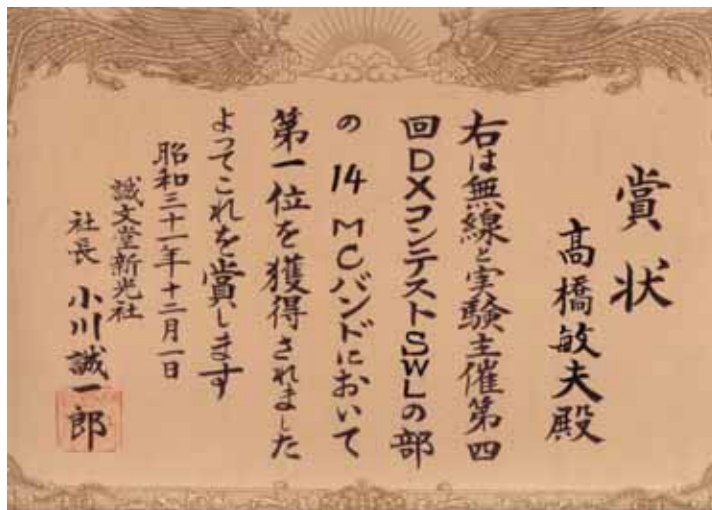
編集発行 船橋市アマチュア無線非常通信連絡会 船橋市アマチュア無線クラブ JS1IWA

ハム運用講座 〔第5回（最終回）〕

JA1BWA
高橋敏夫

このハム運用講座は今回で最終回となりました。アマチュア無線の運用は、特定の局だけとのQSO、所謂電話ゴッコのみでは、その面白さや運用テクニックの上達は望めません。アマチュア無線の楽しみ方は沢山ありますが、今回は国内コンテストの運用方法と、HFの国内電波伝搬についてお話してみましよう。

私がハムのコンテストに入賞したのは、1956年に開催されました「無線と実験」誌主催第4回DXコンテストのSMLの部でした。当時、私は大阪にいてJARL-SWL JA3-1078としてハムの卵でした。



この受賞によって、私はハムになる前にハムのコンテストに参加する喜びを知ったのだと思います。ですから翌1957年5月にJA3AAQ、そしてその翌1958年4月転勤でJA1BWAのコールサインを得てからも各種コンテストやアワードに挑戦することがたいへん好きになりました。

ハムのアクティビティを持続させるためには、何か目標があるとFBです。その一つにコンテストがあります。一年中毎週末には何らかのコンテストが開催されており、コンテストカレンダーやコンテストルールは、「CQ誌」、「JARL NEWS」の毎号に掲載されています。

国内コンテストの運用方法

殆どどのコンテストのルールは、決められた時間内に、出来るだけ多くのポイントとなる局とマルチブライヤー局（乗数局）とQSOして競うというものです。そしてそのスコアは、合計ポイント X 合計マルチ です。したがって、闇雲にポイント局ばかり多数QSOしてもNGで、いかに多くのマルチ局とQSOすることが肝要ということになります。

コンテストは高得点が目標ですが、しかしコンテストの楽しみはそれだけではなく、数年ぶりの知人再会やバンドコンディションの把握、そしてオペレーションテクニックの上達などたくさんあります。QST誌の2004年1月号に、同誌編集者のWB8IMYが「Zen and the casual RTTY contester」を記載しました。そしてこちらのCQ誌2004年4月号に、7L4IOU出島さんが「禅とRTTYカジュアルコンテスター」と題して翻訳記事を掲載しています。ご覧になった方もあるかと思いますが、再読されれば、たいへん面白い記事で参考になることと思います。さて、本題の国内コンテストの運用方法ですが、先ずそのコンテストのルールをよく読み、よく理解しておくことです。

ルールの中でも特に重要なことは、コンテスト時間、コンテストナンバー、ポイント、マルチの4つは是非確認しておきましょう。それと、参加部門を最初から決めておくことです。

毎年11月に実施されますJARL千葉県支部主催の「ALL千葉コンテスト」の運用方法について書いてみますが、他のコンテストについても準用できるかと思います。このコンテストのルールは、必ず「JARL NEWS」や「CQ誌」に発表されますから、目を通しておきます。

このコンテストの交信相手局(ポイント局)は、次のとおりです。千葉県内局：千葉県内を含む全ての日本国内局、県外局：千葉県内運用局、です。つまり、競技の構図は、千葉県対千葉県外ということで、県外局同士のQSOはポイントになりません。

このコンテストは参加部門の多いコンテストです。電信、電話部門のオールバンドの他、シングルバンド部門など合計22部門ありますから、どの部門にエントリーするのかを予め決めておくのが良いのです。コンテストの途中から部門変更は可能ですが、ロスタイムが増えることになります。

コンテストQSOの方法

QSOのスタイルは二つあります。ランニング[Running]、呼び回り[S&P(Search & Pounce)]ですが、のランニングは同じ周波数で「CQコンテスト」の連呼です。局設備やアンテナ、ロケーションに自信のある局の運用スタイルです。のS&Pは、自分のQSOしたい局を探してコールするスタイルです。もちろん と を組み合わせることも良いのです。

(1) CQ呼び出し

《電話の例》CQ CQ 千葉コンテスト こちらはJA1BWA JA1BWA 千葉県船橋 JA1BWA 受信します。

《電信の例》CQ CQ CHIBA TEST DE JA1BWA JA1BWA K

呼び出し方法について、ルールには県内局(CQ TEST)と、県外局(CQ CHIBA TEST)を別けて記載していますが、これは特に識別の必要はなく、コンテストナンバーやアナウンス、そしてコールブックなどから経験的に分かりますので、CQ CHIBA TESTの統一で良いと私は思います。そして、この呼び出し方法がルール違反としてコンテスト参加失格になるようなことはないと思います。

(2) QSO

《電話の例》JA1BWA こちらはJA3AAQ 大阪府豊中市 受信します。

JA3AAQ こちらはJA1BWA 了解しました。ナンバーは591204 591204 です。どうぞ。

JA1BWA こちらはJA3AAQ 了解しました。ナンバーは592504 592504 です。どうぞ。

JA3AAQ こちらはJA1BWA 了解しました。有難うございました... Q R Z , , ,

《電信の例》JA1BWA DE JA3AAQ K

JA3AAQ DE JA1BWA R UR 5991204 1204 JA3AAQ BK

QSL UR 5992504 5992504 2504 BK

QSL TNX 73 JA3AAQ DE JA1BWA SK

マルチプレイヤーは、異なる都道府県支庁と千葉県内の市都区ですから、そのバンドの国内電波伝搬状況の把握が必要です。国内電波伝搬については事項にてお話ししますが、オールバンド参加局は日頃からバンド切り替えが素早くできるようにしておくことが肝要です。

コンテストに入賞するためには、事前準備も含めてシリアスコンテスターとなる必要がありますが、最初はやはりカジュアルコンテスターとして、入賞を目標としないで気楽に参加しましょう。

最後に、コンテストに参加しましたら、必ずログを主催者へ送付するように心掛けましょう。

HF帯の電波伝搬について

先日、NHK-TVでガリレオ伝記の「その時歴史が動いた」を見ました。当時の人々は、地球が動いている、そして地球が丸いとは思ってもみないことでしたが、現代でも概念として理解しても、丸い地球の裏側まで電波が何故届くのか、なかなか理解し難いことのようにです。以前、カミサンに電波の伝わり方を説明したことがありました。地上数百kmの高さに電離層というものがあり、それに電波が反射して地上に戻ってくる、それをくり返してジグザグのようになって地球の裏側まで伝わるのだ、と説明しても電離層そのものを理解してくれなかったことを思い出しています。電離層は、大気が太陽光線により電離し、その気体分子はイオン化します。それは伝導率の高い良導体になると考えられています。HF帯の電波伝搬は、V/VHF帯と異なり殆んどは電離層を利用します。これは国内外を問わず電離層伝播で、HF帯の面白さの最たるものでしょう。電離層という地球規模の自然現象は、現在でも科学的に100%解明されてはおりません。それだけに、大きなロマンを感じます。HF帯の電波伝搬は、この電離層に電波が反射して遠距離まで届くのです。

50メガの夏季に経験する「Eスポ」（正確にはスプラディックE層）は、古くからVHF帯の異常伝播として知られています。電離層には地上70kmぐらいのところにあるD層、100kmぐらいにあるE層、200kmぐらいのF1層、350kmぐらいのF2層に別れていて、その電子密度は下部のD層から順にF2層が一番高いのです。電離層の電子密度が高ければ、高い周波数も反射してくれますので、夏季の昼間地上100kmぐらいに不規則的に発生する非常に電子密度の高い電離層は、50メガ帯ときには144メガ帯の電波も反射し、他エリアとのQSOが出来る異常伝播です。

HF帯は正規伝播が多く、地上直接波以外は電離層という自然現象に支配されています。海外への電波伝搬は、主に電子密度の高いF2層によるものを正規伝播と称していますが、各層を経由したりダブルポップしたり、横ズレ現象など複雑な伝播も多いのです。国内の電波伝搬は、低層のD層やE層によるものが殆んどですが、遠距離になりますとF層伝播もあります。そして、使用周波数や季節変化、昼夜変化などがあり一様ではありません。ですからHF帯は面白いのでしょう。

国内の電波伝播予報は、海外も含めて毎月のCQ誌のカラー頁に分かり易く掲載されていますので、たいへん参考になります。この予報を見るにあたり、電波伝搬の参考知識としてのキーワードを列記しておきます。ハム用語集などでその解説をご覧ください。

臨界周波数

MUF(Maximum Usable Frequency)

LUF(Lowest Usable Frequency)

FOT(Frequency of optimum Traffic)

SSN(Sun Spot Number)

フェージング

磁気嵐

大圏コース

ロングパスとショートパス

エコー

散乱波

このハム運用講座は、連絡会ニュースに約1年間5回に別けて拙文を掲載していただきました。ハムの知識は貴方のハムライフをより豊かにしてくれます。毎回の記載内容は、それぞれ知識の入口に過ぎませんので、この後は皆さんの知識欲や好奇心を発展させて欲しいと願っております。（完）(29/Apr/2006)